

**H27年度 女性応援講座**

**DV被害からの回復と  
そのサポートについて**

平成27年9月10日(木)  
17日(木)

計2回

**キラッ☆とよた**

DVが被害者に与える影響や、被害からの回復の道すじに必要なことなどを学ぶ2回講座でした。

講座には、今年度6月～7月に実施した「DV被害者支援のためのサポーター養成講座」の修了生も参加していて、以前学んだことを振り返りながら、DVについてより深い知識を学びました。

受講者は、友人、ご近所など身近な人のDV体験を聞いたときのエピソードを互いに話し合い、サポートする側としてどのような関わり方をしていけるかを考えました。

## 第1回 DVによる心身への影響 参加者5人

### 1. DVについて

#### (1)暴力の種類

身体的、精神的、性的、経済的、外出制限、交友関係の制限など...

#### (2)DVの調査結果

内閣府調査(平成26年度)では、女性の4人に1人、  
豊田市調査(平成24年度)では、女性の5人に1人が  
DVの被害に遭ったことがある

暴力のサイクルが継続⇒長期化⇒被害者が本来持っている力を奪う

#### (3)DVの起こる社会背景

ジェンダー、男性と女性の経済力格差、性別による上下関係など...

社会の構造的な問題が暴力を継続させる大きな要因

#### (4)加害者から逃れられないわけ

夫が変わると信じたい、被害者であることを自覚しにくい、夫の収入、  
子どもの安全や就学の問題

### 2. DVの心身への影響

#### (1)女性への影響

身体的影響...出血、打撲、骨折、やけど、痛みの感覚の麻痺、  
慢性的疲労感、頭痛、イライラ、不眠など

☞病院にかかっても、病名がつかず解決しないことが多い。

「単なる疲れでしょう」「心配いらない」などと簡単にあしらわれてしまい、  
二次的被害にあってしまう場合もある。

精神的影響...自尊感情の低下、判断力・決断力の弱体化、うつ状態、

PTSD(心的外傷後ストレス障害)、乖離

※PTSDの症状として、再体験(その時の苦痛、感情がよみがえる)、回避  
(思い出させるような場所や言動を避ける)、覚醒(かくせい)亢進(こうしん)  
(匂い、音など外部の刺激に過敏に反応し、常に落ち着かない状態)など

## (2) 子どもへの影響

「子どもにはDVのことは話していない。知らないはずである」と思っている、子どもは両親の雰囲気を感じ取っている。

「母親が苦しんでいるのは自分が悪い子だから」と思い込んでしまう。

### ①就学前の子どもの反応

赤ちゃん返り、一人でご飯を食べられない、遊びが幼稚になる など

### ②学齢期の子どもの反応

授業に集中できない、感情のコントロールができずケンカをする、ペットをいじめる、母や年下のきょうだいに暴力を振るう

### ③思春期の子どもの反応

万引き、アルコール、深夜徘徊、引きこもり、不眠、摂食障害

### ④乖離

ぼーっとする、誰もいない方向を向いて独り言を言う

子どもは言葉での表現が未熟な分、行動として表れる

## (3) 親子関係への影響

### ①親子関係がギクシャクする

母親が「父親がいない分、私がしっかりしなくては！」と頑張りすぎると、子どもは気をつかって悩み事を秘めてしまう

### ②親子関係が逆転する

子どもが母親を保護する役割に徹してしまう

### ③暴力の世代間連鎖

## 第2回 新しい生活を始めるために必要なこと 参加者6人

### 1. DV被害を受けた女性の回復の道すじ

#### (1) 人とのつながり

信頼できる人とのつながりが、被害者の日常を支える

#### (2) 具合が悪くなることは当然のことだと知る

「具合が悪くなるのは、自分が弱いから」ではなく、過酷な暴力環境を耐えてきたのだから当然のこと。

他人と自分を比べない、完璧主義を目指さない、自分は自分で良いと考える、長所を意識する。

#### (3) 日常生活を保つ

母親の心身の回復が、子どもの回復もうながす

### 2. DV被害を受けた子どもの回復の道すじ

#### (1) 大人との関係を深める

子どもが甘えを必要としている時期に甘えさせてあげる＝自尊心の回復

#### (2) 暴力への理解を深め、適切な感情表現を学ぶ

母子支援プログラムの紹介

#### (3) 対等な関係の大人モデルに学ぶ

DVの世代間連鎖の断ち切り

レジリエンス(逆境を跳ね返す力)の回復

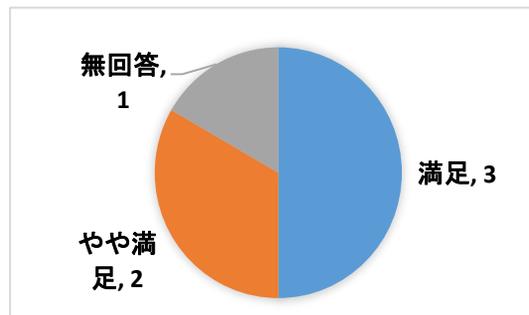
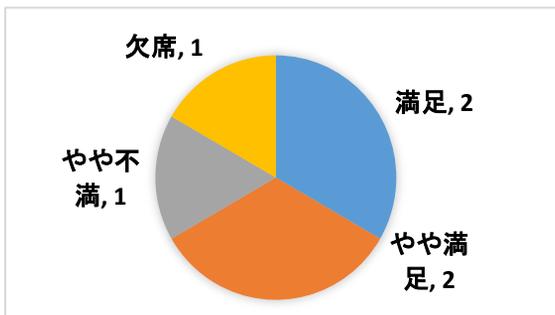
### 3. どんなサポートが考えられるか（受講生より意見）

- ・話を聴く、知っていることは教える、買い物に代わりに行く、子どもを預かる、役所の手続きについて行く。自分も元気であること、余裕を持つこと、秘密を守ること。
- ・地域のDVを発見する。話し相手になる。レジリエンスを信じて付き合ってあげる。その人を受け入れられるだけの力を自分もつける。
- ・母親や、子どもが安心して集まれる居場所づくり。家の敷地内にそういう場所を作りたい。
- ・支援者と定期的に会える仕組みづくり。被害者の集い。何かあったときに「助けて！」と  
言い合える関係性を築く。

### 4. サポートする際に重要なこと

- |                     |                        |
|---------------------|------------------------|
| (1) プライバシーの保護、秘密の保持 | (2) 被害者の意思の尊重          |
| (3) 対等・平等な関係性を保つ    | (4) できることとできないことを明確にする |
| (5) バーンアウト、代理受傷     | (6) 地域のDVを発見する         |

### ★★受講者感想★★【抜粋】



- ・DVIによって様々な影響を受けている被害者と子どもの気持ちを知ることができた。
- ・DVやサポートなど再確認ができた。
- ・他の参加者の意見を聴くことができ良かった。

